



日本防災士会広島県支部会報



第52号

平成25年6月26日

第1回スキルアップ講座 [3.11 東日本大震災に学ぶ]

日時：6月23日13時30分～15時30分

場所：広島市西区民文化センター3階大広間

主催：日本防災士会広島県支部

参加者：41人（県支部防災士）

1. 箱上支部長挨拶

広島県防災士会の現状説明があり、資格者は320人、登録者102人、県支部会員90人で、今年は広島県が推進する防災士養成の最終年度なので防災士の増加に協力しよう。また今回の講演を防災士としてのスキルアップに活かそう。

2. 「被災現地での救援活動に参加して」 國廣和文防災士

・経歴：40年間広島県警に勤務、レンジャー隊員、三次災害救助活動実績

・活動：現在防災救助支援活動に取り組む

・講演要旨：宮城県多賀城市の被災地へ支援活動に行った。2～3mの津波が押し寄せ、多くの住宅の1階は浸水で油交じりのヘドロ状に覆われ、臭気が充満し眼を刺激していた。住める状況への復旧は難しかったが、床下や部屋の中からヘドロや破損物を搬出し、洗浄、清掃を行った。ヘドロの搬出は土嚢袋に入れてショベルの上に載せて搬送した。土嚢作業は腰に負担がかかる作業であった。また地震で屋根瓦の損壊破損家屋が多く、持ちこんだ100枚のビニールシートで応急カバー工事を行った。石巻市の被害の状況なども説明された。被災地は2年経過しても復旧が進んでいないところは多い。今回の支援活動を通して防災士の役わりの重要性和、日頃の防災啓発の重要性を強く感じたと。

3. 「東日本大震災被災者の証言」 アスチカ代表 三浦綾氏

・経歴：福島県いわき市に住居、夫の経営する事業の支援と子女3人の母親
広島市に避難移住、夫はいわき市で事業

・活動：広島県の避難者の連携、協力、明日に向けての力をつなぐ活動を推進。

・講演要旨：災害、防災に知識、経験はなく、母親として主婦として夫の会社の経理担当として生活していた。被災時3人の子供は学校や幼稚園にいたので大変心配した。末っ子の幼稚園児は先生の指示で高台に避難して助かったが先生の家と家族は失われた。被災時は10分から20分毎に余震が起こり不安は続いたが家族5人安全であった。学校は地盤沈下した、1週間の休校となり生徒の安全は各家庭で決断を求められた。夫の経営する会社は閉鎖し従業員には各自自己責任で避難して貰うことになった。

その後家族5人で広島に避難してきた。やがていわき市に水道が復旧したので夫と自分はいわき市に帰り、事業の復旧に取り組むことになった。3人の子供は実家の広島にとどまり避難する事とした。暫くして広島で避難生活をする長女が精神不安になり、母親として両市を定期的に往復する事になった。夫はいわき市で事業責任者として頑張らねばならない強い意思を持っており、自分は妻として支え頑張っている。同じ境遇の避難者が広島市におられるのでお互いに協力、励まし合って近い将来安全になり、被災地に帰る希望をもって頑張っていきたいと。また被災経験から次の教訓や課題を得た。

- ・津波の情報を早く知ること
- ・水を並んで待つのはポリバケツがよい
- ・仮設住宅には悩みが多く、心の復興が出来ていない
- ・6年生の子供は卒業を経験していない
- ・ボランティア活動で今後にかかすものを掴みたい
- ・アスチカの会には100世帯、270人が所属

講演の様子



4. 感想： 國廣さんは被災地での支援活動の厳しさ。三浦さんは震災・防災に弱い一般市民の被災時の混乱と厳しさ。立場の異なるお二人の被災の困難苦労の実態を聞くことが出来た。我々防災士は次に想定される「南海トラフ巨大地震」への備えと支援活動の教訓としたい。 以上